

資料No. 3 - 2

報告文献別一覽表

報告文献別一覧表(医療機器)(2006/4/01~2006/9/30)

No.	感染症(PT)	出典	概要
1	HEV	CDR Weekly 2005; 15(45)	英国保健省はWelsh National Public Health Serviceらと共同で、HEV流行地域への旅行に無関係なHEV感染患者の地域的、臨床的、分子疫学的特徴に関する研究を行った。1996年から2003年の間にE型肝炎と血清学的に診断された186例中、外国旅行に関係していない感染者は17例で、全て英国のブタのHEV株、遺伝子型3型に感染していた。本所見からE型肝炎はイングランドおよびウェールズに固有の型であることが示唆された。
2	HEV	Rev Med Virol 2006; 16: 5-36	HEV分離株計421株のヌクレオチド配列をGenbankで検索し、分析した。系統発生的には4つの主要な遺伝子型に分類された。地理的には遺伝子型1はアジアおよびアフリカの熱帯ならびに一部亜熱帯諸国で分離され、遺伝子型2はメキシコ、ナイジェリア、チャドで分離された。遺伝子型3はほとんど世界中で見つかり、遺伝子型4はアジアでだけ見つかった。遺伝子型3および4を特徴とするほとんどの地域でヒトと動物からの配列の保存性は高く、同じ感染源に由来することを示している。
3	HEV	Ther Apher Dial 2006; 10: 193-197	定期的な血液透析患者におけるE型肝炎ウイルス感染状況を調べた。多施設の患者1077例から被験者として無作為に300例を選択したところ、19.0%がIgG型抗HEV抗体陽性であり、以前報告された健康な腎臓を持つ患者での陽性率より高かった。抗HEV抗体陽性率は抗HCV抗体陽性患者群(27.8%)と抗HCV抗体陰性患者群(17.8%)とで有意差はなかった。
4	HEV	京府医大誌 2005; 114: 511-516	10例のE型肝炎例中9例が、発病前の2ヶ月の間にブタ臓物を摂取しており、非E型肝炎患者22例ではそのような既往はなかった。衛生環境の整っているわが国では、一般的には、食肉からの汚染の防止や、生食を避け、よく過熱するなどの注意により、ほとんどの感染は防げられると思われる。
5	HEV	消化器科 2005; 41: 149-155	HEVはアジアにおける流行性肝炎の最も重要な病原ウイルスと位置づけられ、主に糞便に汚染された水を介して流行する。2001年には日本でも海外渡航歴のない症例から日本固有と考えられる株(JRA-1株)が報告された。HEVは肝炎ウイルスとしては唯一の人畜共通感染症であり、ブタが宿主とされている。ブタレバーを十分に加熱しないで摂食した場合、HEVに感染しE型肝炎を発症する可能性が濃厚で、このことが立証された死亡例が報告されている。西日本ではホルモン料理には主に牛を用いるが、北海道や東北地方では、ブタのホルモンやブタレバーを好んで食する風習があり、このような食習慣の違いが「東高西低」といわれるE型肝炎の発生状況と無縁ではない。
6	HEV	消化器科 2005; 41: 161-167	E型肝炎は、本州ではgenotype IIIの症例が多いのに対し、北海道ではgenotype IVの報告例が多い。しかし、北海道のブタあるいは市販の豚肝から検出されたHEVは逆にgenotype IIIが多い。このことから次の可能性が考えられる:①暴露機会としてはHEV genotype IIIが多いが、その感染が無症候あるいは軽症で経過しており、症例が見逃されている、②いまだ判明していないHEVのリザーバーや感染契機があり、実際にはgenotype IVの暴露機会の方が多い。酪農畜産業者および食肉解体処理、流通に関与している職種はなかった。E型では、生あるいは生焼けて豚内臓肉摂取をしたり、若しくは十分に加熱したかどうか記憶が定かでない症例が32例中11例あった。
7	HEV	消化器科 2005; 41: 173-178	日本人がHEVに感染する機会はいくつもあり明らかにされている:①外国のE型肝炎流行地域旅行中の感染②豚肉、鹿肉、猪肉など生肉の摂食を介した感染③輸血を介する感染である。②が直接の原因と考えられる症例は世界全体では少ないが、日本からの報告が飛びぬけて多い。急性E型肝炎患者が少ないにもかかわらず、抗HEV抗体保有率は意外に高く、不顕性感染が多いと考えられ、特に養豚での抗体保有率は非常に高い。ニワトリで見つかったウイルスはavian HEV (aHhEV)と呼ばれるが、ヒトへの感染の可能性は極めて少ない。1, 2型HEVはE型肝炎流行地(1型は東南アジアから中近東、アフリカ各国、2型はメキシコ)に常在し大流行、散発的流行の原因となっている。3, 4型は、非流行地域の散発的発生の原因となる。

No.	感染症(PT)	出典	概要
8	HEV	消化器科 2005; 41: 179-184	Effective population sizeの解析からHEV genotype IIIとIVの分岐時期(HEVが本邦に入った時期)を推定すると、両タイプとも約100年前に遡る。大正(1912年)から昭和初期にわたるブタの飼養は、本邦における1900年以降のブタの普及とHEV感染の拡散が関与している可能性を示唆し、HEV感染は、人畜共通感染症として、ブタからヒトへの感染がクローズアップされている。
9	HEV	臨床消化器内科 2006; 21: 519-526	輸入感染例もあるにはあるが、わが国のE型肝炎例の多くは、土着化したE型肝炎ウイルス(HEV)による国内感染であり、感染源としてはブタ、イノシシ、シカなどの動物が注目されている(ただし輸血を除く)。土着HEV株の遺伝子型は3型と4型であり、前者は津軽海峡以南に、後者は北海道に多く存在する。分子時計解析によって、3型も4型も西暦1900年前後に日本上陸したと推察される。
10	HEV	臨床消化器内科 2006; 21: 579-586	世界各地のブタ同様、わが国のブタでもE型肝炎ウイルス(HEV)(遺伝子型3型と4型の土着株)の感染が蔓延状態にある。ブタからヒトへのHEV感染を示す直接的な証拠は得られていないが、実験的にブタからチンパンジーへの感染が立証され、ヒトHEVと塩基配列が100%一致するHEV株がブタから分離されていること、E型患者が多い北海道では多数の患者が発症1~2ヶ月前にブタレバーやホルモンの摂食既往を有し、市販のブタレバーから1.9%(7/363)の頻度でHEVが検出されている。ブタの肉や内臓を生、あるいは加熱不十分な状態で摂食した場合にはHEVに感染する可能性があると思われる。
11	HEV	臨床消化器内科 2006; 21: 601-606	北海道北見市で69歳、男性がE型肝炎で死亡した。種々の調査により同市内の焼肉店で会食した患者の親類縁者計7名にE型肝炎が集団発生していたことが判明した。感染源は豚肉、豚レバーと考えられた。またE型肝炎ウイルス(HEV)に感染した患者次男の血液型が64歳男性に輸血され、受血者はE型肝炎を発症した。HEV-RNA解析を行ったところ、患者次男と受血者の配列は一致した。本事例は市井の料理店でのHEV感染を示唆する初の事例であり、またわが国のE型肝炎の疫学的データを非常によく反映している。
12	トリインフルエンザ	感染症学雑誌 2006; 80: 1-7	インフルエンザは、インフルエンザウイルスによって引き起こされる呼吸器感染症で、比類なき伝播力の強さにより、世界各地で流行を繰り返している。新型ウイルスの出現メカニズムについて、これまでは鳥のウイルスとヒトのウイルスがブタなどの同一個体内に共感染することでハイブリッドウイルス(遺伝子再集合体)が生じると考えられてきた。しかし、実際にブタで、鳥のウイルスとヒトのウイルスの間において遺伝子再集合が起こったという証拠はない。また、新型ウイルスが従来考えられていたものとは異なるメカニズムで出現しうることが示唆された。必ず起こるパンデミックに対して、人類はまだ十分な備えができていないと言いき難い。
13	トリインフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
14	トリインフルエンザ	OIE 2006年7月21日	中国における高病原性鳥インフルエンザ(follow-up report No. 18): 2006年7月14日に発生した中国の新疆ウイグル自治区におけるH5N1トリインフルエンザウイルス感染は、ニワトリの疑い例6000羽、死亡例3045羽である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
15	トリインフルエンザ	Weekly epidemiological record 2006; 81: 13	2006年1月10日、中国衛生省は中国で8例目のH5N1トリインフルエンザウイルス感染症のヒト症例を確認した。症例は南部のHunan省出身の6才の男児で、2005年12月24日に熱と肺炎を発症し、現在入院中で症状は安定している。中国当局は以前に公表された症例2例がその後死亡したことも報告した。症例は12月7日に報告されたGuangxi自治区の10才の少女と12月16日に報告されたJiangxi省の35才の男性である。中国における確定症例8例のうち現在5例が死亡している。
16	トリインフルエンザ	WHO EPR 2006年9月14日	インドネシア保健省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染をさらに2症例確認した。これらの症例は2006年3月および5月に発生した。1例目は、West Java州 East Bekasiの5才の男児で、2006年3月4日に発症し、19日に死亡した。2例目は、West Sumatra州 Solokの27才男性で、2006年5月17日に発症しH5N1感染が確認された15才の妹の接触者追跡中に特定された。男性の症状は軽度のままで、数日以内に回復した。男性から収集されたサンプルの初期検査はH5N1感染陰性であった。
17	トリインフルエンザ	WHO H5N1 avian influenza: timeline 2005年10月28日	中国の研究者による、ブタにおけるH5N1トリインフルエンザの感染の予備的調査結果では、ブタの感染は広がっているとの証拠はなく、また、調査結果は、疫学的にそれほど重要ではないと思われる。
18	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月30日 http://www.who.int/csr/don/2005_12_30/en/index.html	トリインフルエンザ (update 51): 中国衛生省は中国本土においてH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症例1例を確認した。症例は南東部のFujian省在住の41才女性で、2005年12月6日に熱とそれに続く肺炎の症状を発症し、2日後に入院し、12月21日に死亡した。12月13日、患者からの検体に関する初期検査はH5N1陰性であったが、12月23日の更なる検査で陽性を示した。患者からウイルスも分離された。医学的監視下に置かれている密接な接触者はいかなる症状も示していないと衛生当局は報告している。
19	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月10日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_10/en/index.html	中国におけるトリインフルエンザの状況: 中国衛生省は中国で8例目のH5N1トリインフルエンザウイルス感染症のヒト症例を確認した。症例は南部のHunan省出身の6才の男児で、2005年12月24日に熱と肺炎を発症し、現在入院中で症状は安定している。中国当局は以前に公表された症例2例がその後死亡したことも報告した。症例は12月7日に報告されたGuangxi自治区の10才の少女と12月16日に報告されたJiangxi省の35才の男性である。中国における確定症例8例のうち現在5例が死亡している。
20	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月19日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_19/en/index.html	中国におけるトリインフルエンザの状況 (update): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症例1例を確認した。症例は中国中南部のSichuan省在住の35才女性で、家禽の屠殺に従事していた。症例は2006年1月3日に発症、1月10日に発熱と肺炎の症状のため入院し、1月11日に死亡した。症例が屠殺作業中に感染したのか、住んでいる村において感染した鳥類への直接的暴露の結果として感染したのかどうかを決定するための詳細調査が実施されている。
21	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年6月16日 http://www.who.int/csr/don/2006_06_16/en/index.html	中国におけるトリインフルエンザの状況 (update 12): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる19例目のヒト感染症例を確認した。症例は香港に近いGuangdong省の31才男性トラック運転手で、2006年6月3日に発症し、入院中であるが、重症の肺炎で危篤である。感染源は調査中であるが、発症前に生きた家禽が売られている市場を数回訪れたことが明らかとなっている。この地域では家禽におけるH5N1感染は公式には報告されていない。

No.	感染症(PT)	出典	概要
22	トリインフルエンザ	カナダ Public Health Agency of Canada/ CCDC 2006年3月15日	2006年2月9日、中国衛生省は同国で11例目となるH5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症の検査確定例1例を報告した。症例は南東部Fujian省出身の26才の農業従事者の女性で、1月10日に発症し、肺炎で入院し、治療中であり、安定した状態である。2006年2月13日、中国衛生省は同国で12例目となるH5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症の検査確定例1例を報告した。症例は南中央部のHunan省出身の20才の農業従事者の女性で、2006年1月27日に発症し、その後重度の肺炎で入院した。
23	トリインフルエンザ	国立感染症研究所 感染症情報センター 2006年6月19日 http://idsc.nih.gov/p/disease/avian_influenza/62who7.html	WHO更新情報-中国におけるトリインフルエンザの状況(update 12):中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる19例目のヒト感染症例を確認した。症例は香港に近いGuangdong省の31才男性トラック運転手で、2006年6月3日に発症し、入院中であるが、重症の肺炎で危篤である。感染源は調査中であるが、発症前に生きた家禽が売られている市場を数回訪れたことが明らかとなっている。この地域では家禽におけるH5N1感染は公式には報告されていない。
24	変異型クローイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20060623.1741	2006年6月22日、オランダ保健当局の発表によると、2005年5月に死亡した女性が変異型クローイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)と診断され、オランダにおける2例目の症例となった。この症例は汚染された肉製品の摂取により感染した可能性が最も高い。オランダではvCJD伝播の懸念から献血に関するより厳重な制限を課している。
25	ウエストナイルウイルス	ProMED20060424-0120	アルゼンチンで初めて、少なくとも2頭のウマでウエストナイルウイルス感染症例が確認され、国際獣疫機関に報告された。2006年4月24日から、ウマの輸出を一時的に禁止すると通知した。死亡したウマは、San Antonio de Arecolにある競馬ウマ牧場で飼育されていた。ヒト感染患者は報告されておらず、感染予防キャンペーンを展開していると発表した。環境当局は、この夏季中に野鳥50羽以上の大量死が発生したため、Malargue地区にあるLlancaneloラグーンを(感染症)警戒状態とした。当局は、検体を解析のためにBuenos Aires大学に送付したが、鳥インフルエンザは陰性と判明し、現在、肝炎やウエストナイルウイルスの検査結果を待っている。
26	ハンタウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 838-840	ギニアのSangassouで捕獲したアフリカモリネズミのハンタウイルスの遺伝子配列を検出した。遺伝子解析と系統発生解析から新種のハンタウイルスであることが明らかとなり、「Sangassou virus」と命名した。
27	ウイルス感染	科学 2005; 75: 1352-1355	1998年から99年にかけて、激しい呼吸器症状や脳炎等を示す265人の患者と107人の死者(致死率40%)を出したニパウイルス感染症が、マレーシアで発生した。自然宿主はオオコオモリ(フルーツバット)であり、オオコオモリからヒトへの直接感染例は認められなかったことから、ブタを介してヒトに感染すると結論付けられた。患者の家族や患者を運んだ人も発症して死亡したことなどから、ヒトからヒトへの伝播も起きたことが強く示唆され、警戒を要している。今回、ニパウイルスとヘンドラウイルスの受容体として同定されたのは、Ephrin-B2という蛋白質であり、これを介してウイルスが進入していることが証明された。病理組織学的所見では、中枢神経系の血管炎と内皮細胞障害が特徴的である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
28	ブルセラ症	ISDA News Release (http://www.agris.tate.id.us/Categories/NewsEvents/Documents/PressReleases/USDAchanges%20to%20classa.pdf)	USDAは、アイダホ州のブルセラ症ステータスの「クラスA」への格下げを通知した。ブルセラ症病原菌は調理や低温殺菌により容易に死滅することから、牛肉消費者にリスクはないと考えられる。10月にブルセラ症感染個体が発見された後、更なるブルセラ症陽性個体は見つかっていない。
29	レンサ球菌感染	Communicable Disease Watch 2006; 3: 5	Streptococcus suis(ブタ連鎖球菌)は、感染したブタあるいはその死体との接触により感染する。香港保険局Centre for Health Protection(CHP)によると、2005年のS.suis感染13例中5例が豚肉販売業者、1例がコックであった。中国保健庁は、四川省では2005年7月に農耕業者9名の死亡を含む100人以上のS.suis感染を報告している。CHPは2006年最初のS.suis感染報告を受けた。患者は69歳の主婦である。
30	レンサ球菌感染	ProMED20060412-0060	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。中国の科学者らは、「ブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。」と述べた。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。他の専門家は「トキシックショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方が良い。」と述べた。北京の中国科学院のGeorge Gao氏の率いる研究者らは、「主に四川省の204名が罹患した2005年の流行は唯一のものではなく、1998年の中国江蘇省での流行と、よく類似していた」と報告した。1998年の流行では感染した25名のうち14名が死亡した。
31	レンサ球菌感染	Science 2005; 309: 1308-1309	WHOが中国でのブタ由来の感染症について調査した。中国衛生部の報告によると中国四川省で流行した感染症は2005年7月中旬がピークで、同年8月5日以降は新たな感染例はない。ブタは600頭以上が死亡し、ヒトでは感染例204例のうち38例が死亡した。ほぼ全ての患者が、病気のブタとの接触があった。ヒトとブタの検体を調べたところ、Streptococcus suis serotype 2の存在が確認され、その他の細菌やウイルスは認められなかった。当局によるとヒトからヒトへの伝播は見られなかった。WHOによると、新しい変異型か毒性の強い2型serotypeかは今のところ明らかではない。
32	レンサ球菌感染	N Engl J Med 2006; 354: 1325	アメリカでのStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例についての報告である。健康であった59歳の男性農業従事者が突然、発熱と錯乱を起こし、髄膜炎となった。血液と髄液培養によりS. suis感染と判明した。抗菌療法をセフトリアキソンとバンコマイシン投与では状態が悪化したため、抗菌療法をアンピシリン静注に変更した。13日間入院後、症状はなくなり、退院した。患者は入院の数ヶ月前、子豚を近くの農場から購入したが、兄弟の子豚が髄膜炎で死んでおり、S. suisはその農場で検出された。
33	レンサ球菌感染	PLoS Medicine 2006; 3: e151	2005年7-8月に中国四川省で発生したStreptococcus suis serotype 2(SS2)感染のアウトブレイクについて調べた。ヒト感染患者の臨床的、病理学的特徴は典型的な連鎖球菌中毒ショック症候群であった。2005年の流行ならびに1998年に江蘇省で流行した時のヒトおよびブタの検体から単離した菌の遺伝子型を調べたところ、両者は共通した遺伝子型を有していた。またミニブタでの感染実験で強い毒性を示した。

No.	感染症(PT)	出典	概要
34	寄生虫感染	ProMED-mail20060520.1430	2005年12月から2006年3月にドイツMecklenburg-Vorpommern州で大家族のメンバーの17人に旋毛虫症が検出された。2006年3月21日に、地区の保健当局は旋毛虫症の検査診断症例について通知された。患者(30歳女性)は下痢、吐き気、熱、顔の膨張、および筋肉痛を伴い、2006年2月22日に入院した。旋毛虫幼虫は、免疫蛍光顕微鏡検査による筋生検で見つかった。地元の保健獣医当局は、家で育てられ、肉屋で屠殺されたブタの肉が感染源であると疑っている。
35	寄生虫感染	Ugeskr Laeger 2006; 168: 384-387	デンマークでは、ヒト回虫症について、海外旅行により感染したか、または回虫症の流行地から輸入された未処理の食品を摂食したために起こると言われていた。しかし、Viborg郡での疫学的調査の結果、ブタが一次感染源であることが示された。著者らの人口遺伝学的調査でも、この仮説が証明された。このことから、先進国におけるヒト回虫症の主な感染経路はブタからヒトであると考えられる。つまり、回虫症は人獣共通感染症あり、その対応策はブタ糞便との接触を避けることであり、特に小児で注意が必要と考えられる。
36	寄生虫感染	Vet Parasitol 2005; 131: 207-211	原生動物Toxoplasma gondii感染症は温血動物に広く世界中に見られる。臨床的トキソプラズマ症を発症する成人感染例はほんの僅かであるが、豚肉がその感染源として最も重要である。ブラジル、サンパウロ州で屠殺前のブタから、初めて、生きたT. gondiiが分離された。ブラジルのブタ由来T. gondii分離株は、表現型的にも遺伝型的にも米国のブタ由来分離株とは異なり、病原性が高い。
37	寄生虫感染	養豚の友 2005年10月号: 62-66	豚囊虫は豚肉を介して人に感染し、人の脳などに寄生する危険な寄生虫として知られている。豚への感染は、人の小腸に寄生する成虫(有鉤条虫)から産出される虫卵の摂取による。豚筋肉内の囊虫は、人においても同様に筋肉などに囊虫を形成するが、人での囊虫は、特に脳に集積する傾向があり、癲癇などの致命的な症状を示す。予防は、人の糞便を確実に始末し、豚が摂食しないようにすることに尽きる。治療は、メベンダゾールなどの高濃度連続投与による駆虫、もしくは外科的摘出が行われる。
38	寄生虫感染	養豚の友 2006年1月号: 58-61	ブタでの多包虫の発育は悪く、ほとんどが変性した虫体になり、家畜では多包虫の中間宿主としての役割を果たさないものと考えられている。1992年のデータでは、ブタの多包虫感染率0.09%。ヒトに感染した場合は重篤な経過をとる。大部分が包虫として肝臓に寄生し、包虫のまま外生出芽によって増大し、肝実質に進入し、肝臓を破壊し続ける。肺、脳などに転移して二次病巣を生じる。全国的に蔓延・拡大する危険があり、最も注目すべき人獣共通感染症と思われる。治療は、外科的摘出に頼るのみである。
39	寄生虫感染	養豚の友 2006年3月号: 68-70	日本に分布する肺吸虫は主にウエステルマン肺吸虫、大平肺吸虫、宮崎肺吸虫の3種である。現在は豚病としてよりもヒトへの感染源として重要視されている。第一中間宿主(カワニナ)、第二中間宿主(淡水産カニ)をとる。第二中間宿主体内のメタセルカリアをヒトやイノシシが経口摂取して感染する。肺吸虫は肺に寄生し、様々な呼吸器症状を呈し、ブタでは結核と類似する症状がみられる。現在はブタでの寄生例は少なく、イノシシにしばしば寄生が認められる。確定診断は糞便検査による虫卵の検出と免疫診断が併用される。ブタでは実務的には予防治療は特に考慮する必要はないが、予防法は淡水産カニがブタに食べられないようにすることで、有効な駆虫薬にはブラジクワンテルがある。
40	寄生虫感染	養豚の友 2006年9月号: 58-60	トリヒナの成虫は豚などの小腸粘膜に寄生する。寄生による症状は、腸トリヒナ症期では食欲不振、嘔吐が起り、筋トリヒナ症期では急性筋炎による激しい筋肉痛を伴う、咀嚼・嚥下・発声・呼吸・歩行困難のほか、発熱・発疹が起る。2005年2月ロシアでアナグマの肉料理を食べた住民25名が入院、内6名が重篤となった。2005年、北海道のアライグマからトリヒナが検出された(北海道新聞2005年5月12日)。日本の豚における筋トリヒナ検出は不詳である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
41	結核	ミネソタ州動物保健局 Bovine Tuberculosis Current Updates 2006年2月15日 (http://www.bah.state.mn.us/diseases/tuberculosis/current_updates.htm)	2005年2月、ウシ結核の疑いがある5歳のウシが同定された。感染群と関連のある群の隔離・検査が行われ、検査陽性群については処分、陰性群はリリースが実施されている。検査により5群のウシ結核感染群が発見されたため、USDAはミネソタ州のウシ結核ステータスを「Modified Accredited Advanced」へ格下げした。現在、引き続きウシ結核感染群の追跡および検査が実施されている。
42	口蹄疫	OIE Disease Information 19(15) 2006年4月13日	アルゼンチンCorrientes州で2006年2月5日に発生した口蹄疫(セロタイプO)は、ウシ4513頭、ブタ5頭、ヤギ・ヒツジ533頭の被害が出たが、隔離、ワクチン接種、消毒などの措置により、根絶した。
43	口蹄疫	OIE Disease Information 19(4) 2006年1月26日	2006年1月12日、ロシアChitinskaya州Kalgansky地区で、口蹄疫(セロタイプAsia1)が発生した。補体結合試験、ELISA、PCRで陽性であった。ウシ、ブタで死亡例はない。感染源を調査中である。
44	口蹄疫	ProMED20060313-0050	中国農業省は、アジア1型口蹄疫ウイルスによる感染事例が青海省Guinan県Dayu村で発生したと、3月12日に発表した。事例を報告した農場ではウシ19頭とブタ2頭が、同省の獣医学局によって処分された。農業省によると、感染は現在制圧されている。
45	口蹄疫	ProMED20060502-0050	中国当局は、青海省の家畜で2ヶ月間で2件目となる口蹄疫事例を確認した。アジア1型口蹄疫ウイルスによる症状が、2006年4月26日にHaiyan地区の乳牛4頭で確認され、診断が確定された。農業省と青海省当局は感染を制圧するための緊急対策を実施している。
46	口蹄疫	ProMED-mail20060111.0095 ProMED-mail20060112.0107	ベトナム当局者は2006年1月11日、ベトナム南部で口蹄疫に感染した疑いのあるブタが見つかったと発表したが、死亡したブタを調べたところ、コレラであることが判明した。2005年12月中旬以降、約380頭のブタがTien Giang省で死んだ。口蹄疫の流行はないが、数頭のブタは口蹄疫陽性であった。
47	細菌感染	J Food Prot 2006; 69: 260-266	スイスの屠殺場で処理された630頭のブタの糞検体について、E. Coli O157 (rfbE) と Shiga-toxin 産生E. Coli (STEC, stx)の排出をPCRにより検査した。rfbE陽性率は7.5%、stx陽性率は22%であった。コロニーハイブリダイゼーションにより31株のE. Coli O157と45株のSTECが単離され、これらの表現型と遺伝子型を特徴づけた。その結果、ヒト疾患と相関性が強いものは1株だけであり、ほとんどが病原性が低いと思われた。

No.	感染症(PT)	出典	概要
48	細菌感染	OIE Disease Information 19(10) 2006年3月9日	2006年2月22日にブラジルで古典的ブタコレラが発生し、3月6日に確定された。ブタ疑い例131頭、死亡例46頭である。
49	細菌感染	OIE Disease Information 19(24) 2006年6月15日	2006年3月1日にドイツNorth Rhine-Westphaliaで発生した古典的ブタコレラは当局の撲滅策の結果、鎮静した。2006年5月9日以降、1例の発生もなく、感染地域からの検体は陰性である。
50	細菌感染	OIE Disease Information 19(6) 2006年2月3日	2006年2月3日、ブルガリアYambol州Boliarovo地区で古典的ブタコレラが発生した。ブタの疑い例30頭、死亡例7頭である。
51	細菌感染	Vet Microbiol 2005; 110: 77-85	ヒト、食品、ウシ、およびブタ由来のシガ毒素産生大腸菌における接着遺伝子を同定した。最も広く見られる接着因子はtoxB遺伝子でエンコードされているもので、74分離株中52例に見られた。ブタ由来のO157:NM株は、eaeA遺伝子は持たないが、lpfAO157/OI-154は陽性であることが、初めて証明された。しかし、この因子の、ブタ腸管でのコロニー形成における意義は不明である。
52	細菌感染	北獣会誌 2005; 49: 83	リステリア属菌(以下リステリア)の一部の菌種はヒトや動物に髄膜炎や敗血症を引き起こし、食中毒の原因菌として知られている。本調査で分離したL. monocytogenes(Lm)全株が、ヒトリステリア症から高率に分離される血清型であった。十分な生体洗浄により農場から屠畜場内への汚染拡散を最小限に抑制することが可能である。本調査で最も高率に分離されたL. ivanoviiは、病原性を有さず、リステリアの中で家畜から最も高率に分離されるとの報告からも、農場から屠畜場、さらに流通過程までの総合的な汚染指標菌として有効である。
53	炭疽	CDC MMWR Weekly 2006; 55: 280-282	2006年2月21日、ペンシルベニア保健局は、肺炭疽症例について報告した。2006年2月16日にNY在住の男性がPennsylvaniaに演奏旅行中に発症し、症例の血液からBacillus anthracisが単離され、確定された。ドラムを作るためにアフリカ産ヤギの皮を作業所で加工し、エアロゾル化したB. anthracis胞子に暴露したことが原因と思われる。3月14日現在、追加の炭疽疑い症例もしくは確定症例は報告されていない。これは1976年以来初めての、米国において自然発生した肺炭疽症例である。
54	感染	ProMED20060412- 0100	中国東部の河川で死亡したブタ数十頭が発見されたが、原因は不明であると、香港の新聞が4月11日に報じた。何らかの感染症が死因ではないかと警戒している。

No.	感染症(PT)	出典	概要
55	感染	WHO http://www.searo.who.int/en/Section316/Section503/Section2141_11747.htm	WHOはインドネシアで地震の影響を受けた地域における破傷風・ジフテリアの予防接種を提供する緊急計画を実施する計画を作成している。破傷風の初めての疑い例はJogjakartaのSardjito病院へ照会した90才男性である。これと同時にWHOは影響を受けたYogyakartaおよびCentral Javaの両方の患者におけるその他の術後感染症の可能性を警戒している。
56	狂犬病	ProMED20060330-0040	2006年3月前半に米国Lea郡でウマの狂犬病症例が記録されたことを受けて、現地の獣医師は、馬主に対して、持ち馬へのワクチン接種を勧奨している。今のところ、Lea郡で飼育されていた問題の馬が、唯一の狂犬病症例である。